

施策の評価シート(令和6年度分)

1 計画における位置付け					
政策体系	総画	目標	04	心やすらぐ住みよいまちづくり	
	合計	基本政策	07	環境にやさしい社会の形成	管理コード 040719
		施策	19	環境を守り継承する社会の形成	本冊ページ 67
	関連個別計画	津市環境基本計画、津市下水道事業基本計画			
	担当部局	環境部、上下水道事業局、上下水道管理局			
	施策の内容(番号)	059		～	061

2 「施策の内容」の総合評価と今後の方向性				
番号	施策の内容	「施策の内容」の総合評価		担当課
		選択区分	今後の方向性 選択区分	
059	恵まれた森林や湖沼、河川、海岸などの自然環境の保全や野生生物の生息、生育環境の確保を図るほか、市民、ボランティア、NPO、事業者、関係行政機関などとのネットワークを強化し、地域特性に応じた環境保全活動を推進するとともに、さまざまな機会を通じた環境教育・環境学習を充実し、環境問題に対する市民意識の高揚に取り組みます。	C	①	環境政策課/環境保全課
060	公共用水域の水質改善に向け、公共下水道の効率的な整備と単独処理浄化槽や汲み取り槽から合併処理浄化槽への転換を促進します。	B	①	環境施設課/下水道工務課/下水道施設課/営業課
061	環境汚染から市民の健康と生活環境を守るため、継続的に環境調査を実施するとともに、監視・指導を徹底します。	A	①	環境保全課

※「施策の内容」の総合評価…A=80点以上、B=60点以上80点未満、C=40点以上60点未満、D=20点以上40点未満、E=20点未満
 ※今後の方向性…①=効果的な事業構成であるため、方向性を維持、②=概ね効果的な事業構成であるが、一部見直し等の余地がある、③=あまり効果的な事業構成ではないため、見直しの余地が大きい、④=事業構成に問題があるため、抜本的な見直し等が必要

3 「施策」の総合評価			
「施策の内容」の総合評価を根拠とした「施策」の総合評価	区分	選択区分	総評(施策の進捗状況や効果等を端的に記載)
		A 80点以上 B 60点以上80点未満 C 40点以上60点未満 D 20点以上40点未満 E 20点未満	B

※総合評価は、「施策の内容」の総合評価をポイント化したものをベースに自動的に判定しています。

計画期間における達成状況										
年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
総合評価	A	A	A	B	B	B	B			

※計画期間である平成30年度(2018年度)から令和9年度(2027年度)の本施策の内容に関する推移を示します。

施策の内容評価シート(令和6年度分)

1 計画における位置付け

政策体系	総合計画	目標	04	心やすらぐ住みよいまちづくり		
		基本政策	07	環境にやさしい社会の形成	管理コード	040719059
		施策	19	環境を守り継承する社会の形成	本冊ページ	67
	関連個別計画	津市環境基本計画(平成30年度～令和9年度)				
	担当部局	環境部				
	施策の内容 (第2次基本計画) ※目指す方向性・各事業の実施により期待される効果	059	恵まれた森林や湖沼、河川、海岸などの自然環境の保全や野生生物の生息、生育環境の確保を図るほか、市民、ボランティア、NPO、事業者、関係行政機関などとのネットワークを強化し、地域特性に応じた環境保全活動を推進するとともに、さまざまな機会を通じた環境教育・環境学習を充実し、環境問題に対する市民意識の高揚に取り組みます。			

2 「施策の内容」に係る主な事業の評価(事務事業評価)

番号	事業名	事業の内容	事業の目的		事業の評価		事業の振り返りとこれから (実施評価、事業評価、今後の方向性を選んだ理由)	
			効	誰	◆ 当初の事業実施計画	実施評価		
	担当課		何		◇ 事業評価の主な視点	事業評価		
					決算額 (千円)	今後の方向性		
059-1	山・川・海ネットワーク事業	交流会や学習会を開催し、山・川・海各地域の市民、事業者、環境団体等が相互理解を深め、情報を共有し、環境の保全などに取り組むためのネットワークづくり	効	市民、事業者、環境団体等のネットワークを強化する	◆	環境団体との連携	◎	環境団体が主体となって実施した環境保全活動(清掃活動、環境基礎講座)の参加者数は、香良洲海岸清掃が台風により中止となったことから、307名と目標を下回った。 引き続き、環境団体と連携し、自然環境の保全に取り組んでいく。
		環境政策課	誰	市民、事業者、環境団体等	◇	目標参加者数 450人	△	
			何	連携して自然環境の保全に取り組む	1,500 (千円)	現状維持		
059-2	地域脱炭素推進事業	脱炭素に関する価値観を波及させ、市内のあらゆる主体が連携・協力し、地域ポテンシャルを活かした脱炭素の取組	効	地域脱炭素社会を実現し地球温暖化を防止する	◆	2030年度に2013年度比温室効果ガス排出量48%削減	×	「津市地球温暖化対策実行計画」に基づく事業であり、令和6年3月の一部改訂時に公表している2019年度温室効果ガス排出量が2013年度対比で9.5%減であったため実施評価については「×」とした。 2030年度の目標に向けて、より実効性のある取組について検討し事業の加速化を図る。
		環境政策課	誰	市民、事業者、団体等のあらゆる主体	◇	市域における温室効果ガス排出量	△	
			何	地球温暖化問題に関心を持つことにより、脱炭素に資する行動の変容を起こす	1,451 (千円)	拡充・充実		
059-3	環境学習センター運営事業	3R、ごみ、自然環境、地球温暖化防止及び環境衛生など、環境に係る総合的な啓発活動と環境活動に取り組むネットワークづくり及び様々な分野の環境学習の実施	効	環境学習センターが環境学習・環境活動の拠点となる	◆	多様な環境学習の実施	○	環境学習等の参加者数は、「田中川干潟生き物観察会」が発令されたことなどから、127名と目標には届かなかった。 環境学習の開催時期や内容に加え、環境学習センターについてはより環境学習の拠点となるよう検討する必要がある。
		環境政策課	誰	市内外の人	◇	目標参加者数 190人	△	
			何	環境について学び、考える機会となる	12,386 (千円)	現状維持		

施策の内容評価シート(令和6年度分)

059-4	生物多様性の保全事業	市民や関係団体と連携し、市民活動団体等の活動を後援	効	環境問題に対する市民意識が高揚し、自然環境保全等への理解が深まる	◆ 市民活動団体との連携	○	市民活動団体等の実施する活動を後援し、その実績報告から地域の環境教育・学習活動の促進が図られたことが確認できたことから評価した。令和6年度は3団体の4つの活動の後援を行った。今後も本事業の実施による効果が期待されるため、方向性を現状維持とした。
	誰		市民活動団体	◇ 市民活動団体の活動への後援回数	○		
	環境保全課		何	地域の環境教育・学習活動の促進	0 (千円)	現状維持	
059-5			効		◆		
			誰		◇		
			何		(千円)		
059-6			効		◆		
			誰		◇		
			何		(千円)		
059-7			効		◆		
			誰		◇		
			何		(千円)		

※実施評価(計画どおり実施したか)…◎=計画を達成(100%以上) ○=概ね計画どおり(80%以上~100%未満) △=計画を下回った(50%以上~80%未満) ×=計画を大きく下回った(50%未満)
 ※事業評価(効果があったか)…◎=大いに効果が認められる ○=ある程度の効果が認められる △=あまり効果がなかった/事業完了前につき効果の発現に至っていない ×=効果を測定できない
 ※今後の方向性…(さなる) 拡充・充実、現状維持、見直し、廃止、完了

3 「施策の内容」の総合評価

実施評価・事業評価を根拠とした「施策の内容」の総合評価	区分	選択区分
	A 80点以上 B 60点以上80点未満 C 40点以上60点未満 D 20点以上40点未満 E 20点未満	

4 今後の方向性

今後の施策の内容の方向性	区分	選択区分
	① 効果的な事業構成であるため、方向性を維持 ② 概ね効果的な事業構成であるが、一部見直し等の余地がある ③ あまり効果的な事業構成ではないため、見直しの余地が大きい ④ 事業構成に問題があるため、抜本的な見直し等が必要	

※総合評価は、主な事業の実施状況(実施評価)、事業対象者への効果(事業評価)の評価をポイント化したものをベースに自動的に判定しています。
 ※今後の方向性は、施策の内容の総合評価および主な事業の今後の方向性をベースに自動的に判定しています。

計画期間における達成状況

年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
総合評価	A	A	B	C	B	B	C			
今後の方向性	①	①	①	①	①	①	①			

※計画期間である平成30年度(2018年度)から令和9年度(2027年度)の本施策の内容に関する推移を示します。

施策の内容評価シート(令和6年度分)

1 計画における位置付け					
政策体系	総合計画	目標	04	心やすらぐ住みよいまちづくり	
		基本政策	07	環境にやさしい社会の形成	管理コード 040719060
		施策	19	環境を守り継承する社会の形成	本冊ページ 67
関連個別計画		津市環境基本計画(平成30年度～令和9年度)、津市下水道事業基本計画(平成30年度～令和9年度)			
担当部局		環境部、上下水道事業局、上下水道管理局			
施策の内容 (第2次基本計画) ※目指す方向性・各事業の実施により期待される効果		060	公共用水域の水質改善に向け、公共下水道の効率的な整備と単独処理浄化槽や汲み取り槽から合併処理浄化槽への転換を促進します。		

2 「施策の内容」に係る主な事業の評価(事務事業評価)

番号	事業名	事業の内容	事業の目的		事業の評価		事業の振り返りとこれから (実施評価、事業評価、今後の方向性を選んだ理由)
			効	誰	◆ 当初の事業実施計画	◎ 実施評価	
担当課		何	何のための事業か	◇ 事業評価の主な視点	◎ 事業評価	◎ 今後の方向性	
060-1	し尿処理施設管理運営事業	安芸・津衛生センター及びクリーンセンターくもずの管理・運営	効	し尿及び浄化槽汚泥を衛生的かつ適正に処理できる	◆ し尿及び浄化槽汚泥の安全かつ安定的処理	◎	し尿処理施設の管理・運営において、突発的な機器等の故障対応はあるが、当初の事業実施計画どおり実施できたため実施評価を「○」。施設の稼働を停止することなくし尿及び浄化槽汚泥の安全かつ安定的処理を継続して実施したことで期待する効果が認められたため事業評価を「◎」。これらの結果より今後の方向性を現状維持とした。
	環境施設課		誰	市民	◇ 施設の年間稼働日数	◎	
		何	安全・安心な日常生活を送れる	565,040 (千円)	現状維持		
060-2	市営浄化槽事業	下水道計画区域及び農業集落排水処理施設などの集合処理区域を除いた区域における浄化槽の設置	効	悪臭及び公共用水域の改善につながる	◆ 市営浄化槽設置件数115基、帰属件数150基	△	市営浄化槽の設置計画115基のうち設置74基及び帰属計画150基のうち47基の帰属であり、計画を下回ったため「△」とした。今後は、申請件数は依然と低いことから、引き続き従来の手法を行うとともに新たにHPを活用した啓発を行っていくため、今後の方向性は「現状維持」とした。
	下水道工務課		誰	市営浄化槽使用者及び近隣住民等	◇ 市営浄化槽設置・帰属件数	△	
		何	生活環境の保全及び公衆衛生の向上	35,874 (千円)	現状維持		
060-3	市営浄化槽事業	下水道計画区域及び農業集落排水処理施設などの集合処理区域を除いた区域における浄化槽の維持管理	効	安心安全なまちづくりの推進につながる	◆ 下水道事業基本計画に基づき、市営浄化槽の維持管理を実施	◎	適切な維持管理により排水基準を守ることができ、不適合件数はゼロであった。市営浄化槽は今後も増やし続ける見通しのため、今後の方向性は「拡充・充実」とした。
	下水道施設課		誰	使用者	◇ 法定点検での水質不適合件数	◎	
		何	生活排水処理施設の維持	386,028 (千円)	拡充・充実		

施策の内容評価シート(令和6年度分)

060-4	浄化槽設置整備費補助事業	浄化槽設置者に対する補助	効	公共用水域の水質改善につながる	◆ 補助金交付89基	○	89基の計画に対し、87基の実績で、約98%の執行となり、概ね目標数値を達成することができた。合併処理浄化槽の設置により引き続き公共用水域の水質改善に取り組む。
	誰		市内の人々	◇ 公共用水域の水質改善	○		
	営業課		何	補助金を活用し、合併処理浄化槽を設置	13,213 (千円)	現状維持	
060-5			効		◆		
			誰		◇		
			何		(千円)		
060-6			効		◆		
			誰		◇		
			何		(千円)		
060-7			効		◆		
			誰		◇		
			何		(千円)		

※実施評価(計画どおり実施したか)…◎=計画を達成(100%以上) ○=概ね計画どおり(80%以上~100%未満) △=計画を下回った(50%以上~80%未満) ×=計画を大きく下回った(50%未満)
 ※事業評価(効果があったか)…◎=大いに効果が認められる ○=ある程度の効果が認められる △=あまり効果がなかった/事業完了前につき効果の発現に至っていない ×=効果を測定できない
 ※今後の方向性…(さらなる)拡充・充実、現状維持、見直し、廃止、完了

3 「施策の内容」の総合評価		
	区分	選択区分
実施評価・事業評価を根拠とした「施策の内容」の総合評価	A 80点以上 B 60点以上80点未満 C 40点以上60点未満 D 20点以上40点未満 E 20点未満	B

4 今後の方向性		
	区分	選択区分
今後の施策の内容の方向性	① 効果的な事業構成であるため、方向性を維持 ② 概ね効果的な事業構成であるが、一部見直し等の余地がある ③ あまり効果的な事業構成ではないため、見直しの余地が大きい ④ 事業構成に問題があるため、抜本的な見直し等が必要	①

※総合評価は、主な事業の実施状況(実施評価)、事業対象者への効果(事業評価)の評価をポイント化したものをベースに自動的に判定しています。
 ※今後の方向性は、施策の内容の総合評価および主な事業の今後の方向性をベースに自動的に判定しています。

計画期間における達成状況										
年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
総合評価	A	A	A	B	B	B	B			
今後の方向性	①	①	①	①	①	①	①			

※計画期間である平成30年度(2018年度)から令和9年度(2027年度)の本施策の内容に関する推移を示します。

施策の内容評価シート(令和6年度分)

1 計画における位置付け

政策体系	総合計画	目標	04	心やすらぐ住みよいまちづくり		
		基本政策	07	環境にやさしい社会の形成	管理コード	040719061
		施策	19	環境を守り継承する社会の形成	本冊ページ	67
	関連個別計画	津市環境基本計画(平成30年度～令和9年度)				
担当部局		環境部				
施策の内容 (第2次基本計画) ※目指す方向性・各事業の実施により期待される効果		061	環境汚染から市民の健康と生活環境を守るため、継続的に環境調査を実施するとともに、監視・指導を徹底します。			

2 「施策の内容」に係る主な事業の評価(事務事業評価)

番号	事業名	事業の内容	事業の目的		事業の評価		事業の振り返りとこれから (実施評価、事業評価、今後の方向性を選んだ理由)
			効	誰	◆ 当初の事業実施計画	○ 実施評価	
	担当課		何		◇ 事業評価の主な視点	◎ 事業評価	
					決算額 (千円)	今後の方向性	
061-1	環境調査事業	大気、水質等についての環境調査や工場、事業場等の排水等の調査	効	大気・水質環境等が保全されることにより、市民が安全・安心で、快適な生活を営める社会が実現する	◆ 環境調査の実施	○	環境調査結果の公表は、適切な時期に実施できたが、環境調査の実施に関しては、一部の工場で改善指導中のため実施することができなかった。今後も環境調査を実施していく必要があることから、現状維持とした。大気・水質環境等の調査結果は毎年度ホームページで行っている。
	誰		市民	◇ 調査結果の公表回数	◎		
	環境保全課		何	環境汚染の防止、生活環境の保全	10,483 (千円)	現状維持	
061-2			効		◆		
			誰		◇		
			何		(千円)		
061-3			効		◆		
			誰		◇		
			何		(千円)		
061-4			効		◆		
			誰		◇		
			何		(千円)		

施策の内容評価シート(令和6年度分)

061-5	効	◆	(千円)
	誰	◇	
	何		
061-6	効	◆	(千円)
	誰	◇	
	何		
061-7	効	◆	(千円)
	誰	◇	
	何		
061-8	効	◆	(千円)
	誰	◇	
	何		

※実施評価(計画どおり実施したか)…◎=計画を達成(100%以上) ○=概ね計画どおり(80%以上~100%未満) △=計画を下回った(50%以上~80%未満) ×=計画を大きく下回った(50%未満)
 ※事業評価(効果があったか)…◎=大いに効果が認められる ○=ある程度の効果が認められる △=あまり効果がなかった/事業完了前につき効果の発現に至っていない ×=効果を測定できない
 ※今後の方向性…(さらなる)拡充・充実、現状維持、見直し、廃止、完了

3 「施策の内容」の総合評価		
	区分	選択区分
実施評価・事業評価を根拠とした「施策の内容」の総合評価	A 80点以上	A
	B 60点以上80点未満	
	C 40点以上60点未満	
	D 20点以上40点未満	
	E 20点未満	

4 今後の方向性		
	区分	選択区分
今後の施策の内容の方向性	① 効果的な事業構成であるため、方向性を維持	①
	② 概ね効果的な事業構成であるが、一部見直し等の余地がある	
	③ あまり効果的な事業構成ではないため、見直しの余地が大きい	
	④ 事業構成に問題があるため、抜本的な見直し等が必要	

※総合評価は、主な事業の実施状況(実施評価)、事業対象者への効果(事業評価)の評価をポイント化したものをベースに自動的に判定しています。
 ※今後の方向性は、施策の内容の総合評価および主な事業の今後の方向性をベースに自動的に判定しています。

計画期間における達成状況										
年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
総合評価	B	B	B	B	B	B	A			
今後の方向性	①	①	①	①	①	①	①			

※計画期間である平成30年度(2018年度)から令和9年度(2027年度)の本施策の内容に関する推移を示します。

